

かわぐち消化器内科

第22回 黄疸のおはなし 一ビリルビン値が高いと言われたら

血液中の赤血球は寿命を迎えると(約120日)、主に脾臓で壊され、赤血球中のヘモグロビン(血色素)は肝臓でビリルビン(黄色素)に分解されます。黄疸とは血液中のビリルビンが上昇することにより、白眼や皮膚が黄色くなる病気です。

黄疸の原因には、アルコール・肝炎ウィルス・薬などによる肝障害、赤血球が壊れる溶血性貧血、膵癌・胆道癌・胆管結石による胆道の機械的な閉塞(閉塞性黄疸)、遺伝的にビリルビンを分解・排泄できない体質性黄疸などが挙げられます。

黄疸の診断には血液中のビリルビン値を測定し、高ければ黄疸となります。頻度の高い黄疸は、体質性黄疸のジルベール症候群で、人口の2-7%と言われています。肝酵素(AST、ALT)に異常はなく、間接ビリルビンの上昇が特徴です。無症状で治療は不要です。黄疸が心配な方は、是非ご相談ください。



院長 川口 義明



かわぐち 消化器内科

TEL 045-830-5311

港南区港南台5-23-30
港南台医療モール3F



〔診療時間〕

午前 9:00-12:00

午後 16:00-18:00

〔休診〕

木曜・日曜・祝日

(土曜午後)

